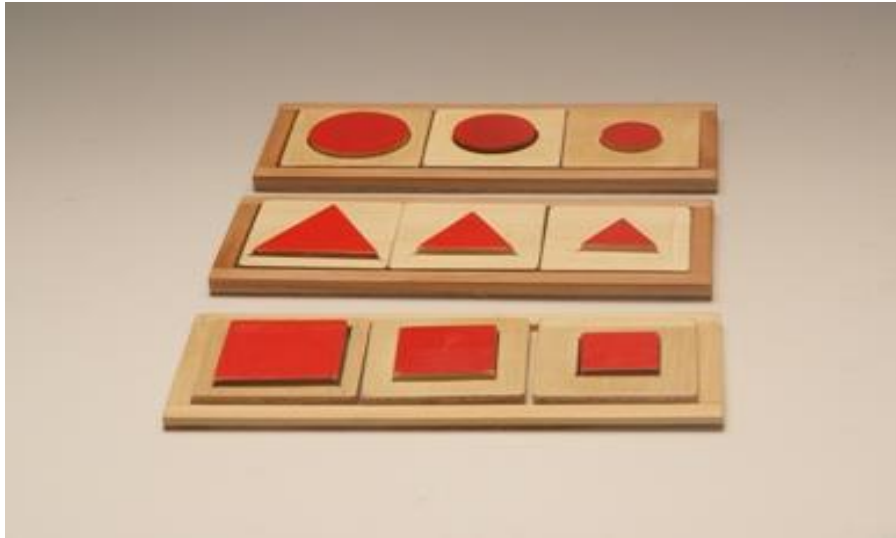


# 基本図形のはめ板大中小



## 【ねらい】

- ①見たところに手を持っていく。力を調節して入れる。
- ②触覚と運動を頼りに大小や向きの違いに気づく。
- ③触覚と運動を頼りに見比べる目の機能を養う。

## 【方 法】

- ①○（中）のみを取り出し、○を○の穴にはめるように手を取って促す。
- ②○を利き手と反対側から大中小の順に並べて提示し、大きい方から渡す。
- ③○（中）と△（中）を並べて提示し、○から手渡す。
- ④△を利き手と反対側から大中小の順に並べて提示し、大きい方から渡す。
- ⑤△大中小のセットを180度回転し（▽の向きにして）、上向きの△を大きい方から渡す。

## 【発展・応用】

- ①見比べられるようになったら、○△□と並べて、○から手渡していく。
- ②形合わせは、平面に描いた○や△でもやってみる。入れたときの触覚的フィードバックの有無で対象者の反応が異なることがわかる。
- ③見回すようになったら、○△□×大中小の9個のマトリックスを完成させる。

## 【留意点】

- ①最初は正解の穴を対象者の身体の正中に提示する。
- ②方法①の場合、所定の場所にピースを持っていくことができても、カみや震えのため、ピースが飛び出してしまうことがある。失敗感が強いようなら教材を「プットイン」などより達成感の強いものに変える。
- ③2つの選択肢を見比べて選ぶことが難しかったら、片方を入れて提示する。
- ④姿勢を整え、利き手と反対側の手を教材の端に添えるようにすると見比べやすくなる。
- ⑤後から渡したピースをすでに入っているピースの上のせてしまうことがある。その場合は無理に訂正せず、「よくできました」とほめる。

## 【評価の視点】

- ①選択肢を穴に入れるとき、正中にあったか正中を外れても入れようとしたかを観察する。  
正中を外れると見なくなるようだったら、見比べはまだ難しいので、選択肢を3つ以上にしないようにする。

- ②○と△を比べると、△の角に触っているかどうかを観察する。角に触っているようだったら、触覚を優先して物の違いを判断しているということである。

